

- 5 小さな高校(1学年あたり1～3クラス)で学習をすること
- 6 大きな高校(1学年あたり4クラス以上)で学習をすること

小さな高校(1学年あたり1～3クラス)で学習したい

【小学校・小学部】

- ・友達とコミュニケーションを早くとれるように人数が少ないほうがいい。
- ・私は、あまり大きな高校にはいける気がしないので小さな高校でまなんでいきたいです。
- ・人数が少なくて、授業に集中できる高校にかよいたい。

【中学校・中学部】

- ・小さい学校でみんなと仲良くなって楽しくお互いに助け合いのある高校に通いたい。わからないものを詳しく教えてくれる学校に学びたい。
- ・私は同じ年齢の人達と会話をしたり、大人数の人達の中で授業を受けることが苦手です。なので、少人数で授業を受けることができる高校に通いたいです。
- ・少人数で学んだほうが先生も一人ひとりの様子を確認することができたり、少人数だから同じクラスの人と仲良くしやすくなるかと思ったから。

【高等学校・高等部】

- ・小規模だとクラス替えなど環境が変わることがないから生活しやすいし、授業でも先生1人に対して生徒の数が少ないから質問などをしやすい環境にあると思った。
- ・小規模校の中で地域に貢献し、地域に支えられる学習をしてきました。小規模校ならではの楽しい学校生活を送られるようなことをさらに学んでいきたいです。
- ・4クラスもあると学習に差が出そうだと思った。
- ・たくさんの方がいるところだと精神的な疲れやストレスが現れることが多いから、そういう人のためにも直ぐに統合すればいいと思わないで欲しい。

5 小さな高校(1学年あたり1～3クラス)で学習をすること

6 大きな高校(1学年あたり4クラス以上)で学習をすること

大きな高校(1学年あたり4クラス以上)で学習したい

【小学校・小学部】

- ・今のクラスの人数が小さいから、大きな社会に出た時の暮らし方とかを早いうちに学んでおきたいから。
- ・意見を交流しあうことで分かり合えることがあると思うので、すごくいいと思いました。
- ・いろんな人がいると、色んな視点から、勉強が分かるし、体育祭、運動会など行事が人が多いと楽しくなるので良いと思います。

【中学校・中学部】

- ・小規模の学校だと感じる事のないストレスや悩みを高校のうちから経験しておいた方がいい。いろんな人がいるのだと心を広くして生活できるようになる。
- ・人が多く、いろいろな人と交流できる学校に通いたい。人が多ければいろんな考え方の人がいるから自分では思いつかなかった意見に気づき考えを深められる。
- ・たくさんの人と会話したり、文化祭に参加したり色んな人と関わりをもって楽しく学習したい。

【高等学校・高等部】

- ・できるだけ多くの人と交流することでコミュニケーション能力等を高めていくことができると思う。
- ・地域の高校は人が減ってしまって、倍率も人数も少ないことが寂しいため規模の大きい学校に憧れる。
- ・県立高等学校再編計画には、生徒数減少への対応として統合がよいと考える。統合により行事や部活動が活性化して、人脈や進路の幅も広がる。一方で学費や通学距離、伝統行事の廃止など課題も多い。普通科高校の減少や偏見を解消するため、コースをふやすなど多様な生徒が目指せる環境づくりが必要であると考え。少子化の影響を踏まえ、メリットとデメリットを考えながら、計画を少しずつ進めることが大切。

小さな高校と大きな高校の両方が必要

【中学校・中学部】

- ・少人数、大人数のよさを生かした高校になって欲しい。

- 5 小さな高校(1学年あたり1～3クラス)で学習をすること
- 6 大きな高校(1学年あたり4クラス以上)で学習をすること

県教育委員会からのコメント

県立高校の現在の姿

- これまで岩手県では、様々な教科の学習、多くの部活動、活発な行事のために、1学年あたり4クラス～6クラスの高校が望ましいとされてきました。
- 令和6年度の県立高校のおよそ半分以上が1学年あたり3クラス以下です。
- 地域の発展や地域の人材を育てる役割として、高校への期待が高まっているので、1学年あたり1クラスの高校もできるだけ残しています。
- 1学年あたり1クラスの高校の入学者の数が少なくなったときは、他の学校と1つにまとめるための話し合い合をする場合があります。
- これから中学生の数が減っていくので、小さな高校(1学年あたり1～3クラス)がさらに増えることが予想されるという課題があります。
- 岩手県の広くて山間地が多いという条件の中で、生徒が減ってもより良い学習ができる方法を考えなければならないという課題があります。
- 小さな高校(1学年あたり1～3クラス)では、専門の先生が少なくなって、学習できる教科の種類を揃えるのが難しいという課題があります。

県立高校の将来の姿

- 生徒同士がお互いに高め合う学習、社会の一員として生きていくための力の育成、生徒が希望する様々な学びができるようにするには、ある程度の学校の大きさ(1学年あたりのクラス数)が必要です。
- 岩手県の広くて山間地が多いという条件、地域の高校への期待などから、岩手県の最も小さな高校は、原則として1学年あたり2クラスとします。
- 他の地域への通学が難しい地域については、最も小さな高校を1学年あたり1クラスにすることを考えます。
- 小さな高校(1学年あたり1～3クラス)では、より良い学習のために、遠隔教育や他の学校との連携を考えていきます。
また、1クラスあたりの生徒の人数などを、国の取り組みに注意しながら考えていきます。
- 大きな高校(1学年あたり4クラス以上)、小さな高校(1学年あたり1～3クラス)にかかわらず、それぞれが魅力ある学校になることを大切にします。